石クリ通信

９月号

与格

事務長　石川　都

中島岳志の近著「思いがけず利他」は、ヒンドゥー語の「与格」についての言及がとても興味深かった。

ヒンドゥー語の特徴は、主格の「私は」の他にも「私に」など「に」で始まる構文があることだという。例えば「私はうれしい」は「私にうれしさが留まっている」となる。もちろん普通の主格の「私は・・です」もあるので、その使い分けにヒンドゥー語初心者はまず躓くらしい。

これについては、自分の意思や力が及ばない現象には与格を使い、自分の行為や感情が不可抗力で現れる場合は与格になるという。これには言葉も入る。言葉を使うのは私でも、インド人にとっては言葉は神から来るものなので、私は言葉の所有者でなく一時的に留まる器にすぎず、言葉は私の後も連綿と継承されてゆく。

興味深い例に、インド人数学者ラマヌジャンの数式がある。彼は生涯が映画化された天才的数学者だが、彼の発見も「証明」のプロセスを踏まなかったため、現代数学では認められずに終わった。ラマヌジャンによると、彼の数式は「ナマギーリ女神が舌に数式を書いてくれた」のだという。ナマギーリ女神とは、日本の吉祥天である。インドの最上カーストで敬虔なラマヌジャンにとって、数学とは有限な人間が無限なる神に近づき得る道であった。彼をケンブリッジに招き証明させようとした数学者とも結局決別するが、この両者の対立はまさに主格と与格の対立と言える。近代数学の証明は「私が論理的に証明する」ことで数式が初めて意味を持つのに対し、ラマヌジャンの数式は「神からやって来るもの」で、私は夢で神が舌に書いた数式を書き留める媒介者にすぎなかった。

中島岳志によれば、数学や音楽は古来から心と呼応する情緒の流れであった。それが近代では全て主格の「私は」に置き換えられたことで、見えなくなったものがあるのではないか・・。統合失調症や認知症の幻視・幻聴も、自分の意思が外部に乗っ取られることで五感が変化し、感覚が鋭敏になった現象ではないか・・とも提起する。

この与格的世界観は、日本でも身近にある。道を究めた達人は、ある時点からは自分が仕事をするのでなく、技が向こうからやって来ると言う。染色家の志村ふくみは、私が色を作るのでなく自然にある草木の色を頂く・・と表現し、民藝家の柳宗悦も、美しいものを作ろうという作為を超え、毎日の仕事を丁寧に淡々とこなすことで、「美」が向こうからやって来て宿る・・と語る。

こうしてみると、中島岳志の「与格」の記述は、単に語学の域を超え、文化論としても非常に深い洞察である。

ニュースを英語で聴く

院長　石川　悟

ＮＨＫの夜７時のニュースと９時のニュースは、英語でも放送しています。リモコンの音声切替ボタンを押すと、日本語から英語に簡単に切り替わります。（筆者が中学生の頃はラジオ第二放送の７時から英語ニュースというのがあって、これをよく聴いていました）。

テレビのニュースはほとんど字幕が表示されますので、英語でニュースを聴く、と言っても内容を理解するのは難しくありません。法律用語や経済用語など、日常生活では使わない言い方はなかなかわかりません。しかし「容疑者」、「上告」、「投資」、「社債」など難しい言葉は英語で何と言っているのだろうとスマホで調べたりしています。

何千万、何億とか英語で言われてもピンときませんが、画面で数字を見ていると理解できます。耳から聞いただけで数字がわかるようになればいい、と思っていますが、なかなか進歩しません。

時々アナウンサーが頭を下げて喋っているのに、英語では何も音声がなく、沈黙している場合があります。日本語の言い方が間違っていたり、文字変換が違っているお詫びで、英語に直す必要がない事態なのだ、と納得しています。

コロナ禍で海外にでかけるのが難しく、英語に触れる機会も少ないので、せめてニュースだけでも、と思って続けていると、だんだん聞き取れる単語が増えて来るのがわかります。みなさんもぜひやってみてください。

めざせ８０２０

看護師　澤田　彰子

私は子どもの頃歯磨きが好きではなく奥歯が虫歯になってしまい、そんな過去から歯科健診は定期的に受けていました。最近は歯周病を気にしていましたが、先日受けた健診で歯軋りのせいで歯が削れていますと言われて、ナイトガード（マウスピースのような物）なるものを作って寝る時に装着しています。何とも不快ですが歯を守るため続けていこうと思います。

家庭菜園

看護助手　柴田　さち子

昨年引越した家は、私たちが一番最初に建てた家です。そこの小さな庭で、家庭菜園を始めました。五月には絹さや、六月にはジャガイモ、七月にはトマト、キュウリ、オクラ、ナス、モロヘイヤ、青トウガラシ、つるむらさきが収穫できました。毎日朝夕に水をやり自分で育てた野菜はとても新鮮でおいしく、毎日がとても楽しみです。

宝石みたい

事務　森　多加子

果物屋さんの店頭に秋の味覚が並び始めました。なかでもぶどうは色々な品種があります。笠間市にあるぶどう園では、今まで食べたことのない品種がたくさん作られています。雄宝、富士の輝き、我が道、ピッテロビアンゴなど、宝石の様にとても綺麗なぶどうです。価格は少しお高めですが、どれも皮ごと食べられてとても美味しいです。お店には常時６種類ほどのぶどうが並び、最盛期には毎週種類が変わるそうです。シーズンが終わる前にもう一度行ってみようと思います。

また、来年も！

事務　吉田　政子

毎年八月の第一土曜日は、河原子の花火大会です。三年ぶりの今年の河原子の花火は、以前の様に打ち上がった花火を観賞し、次の花火が上がる間に、食べて飲んで、おしゃべりを楽しむという様な、河原子花火大会ならではの、のんびりと楽しむ感じではなく、次から次へと間髪を入れず花火が打ち上がり、あっと言う間でしたが、見応えのある花火大会でした。

毎年最後は、何故か拍手をし互いに「また来年まで、頑張りましょう」と挨拶してお開きになります。来年も、皆で一緒に河原子花火を見上げたいです。

かき氷

看護師　太田　小百合

今年の夏はとても暑く、かき氷がどうしても食べたくなりました。どうせ食べるなら、おいしくてかわいいのがいいなあ…と思い、近場のかき氷屋を探して食べに行きました。

いかがでしょう？あまりにもかわいいので、食べるのがもったいなかったのですが、ザクザクと崩して一気に食べちゃいました。

かき氷は平安時代からあったとお店の方から聞き、ビックリでした。

まだまだ暑いですが、かき氷でも食べて、昔から受け継がれてきた涼み方を試してみてはどうでしょうか…。